

一層の友好交流を

教職員研修団が大連理工大訪問

外国語学院日本語スタッフと懇談



記念品を交換する宮本金沢学院学園長（右）と林大連理工大理事長

中国を訪れた金沢学院教職員夏季研修団は八月三十日、金沢学院大学と二〇〇一年に友好協定を結んだ大連市の大連理工大を訪問し、より一層、友好交流を進めていくことを確認しました。

外国語学院の日本語スタッフを交えた懇談会では、大連理工大の林安西学長が「両大学の協力関係が益々拡大するように祈る」と挨拶しました。金沢学院の宮本匡章学園長は、友好協定調印に訪れた当時を振り返り、「貴学がこの五年間にいかに立派に成長されたか分かった。小さな我々の大学を大切にしてくれることに最大限の感謝をしたい」と

述べ、今後の具体的な交流計画を紹介しました。一行は日本語スタッフと夕食をともにして、交流を深めました。

西田哲学の教育観は

富山で文学部公開講座

金沢学院大学文学部の公開講座「西田幾多郎と教育」は九月三日、富山市の富山県民会館で開かれ、田邊正彰教授「写真下」が、山本



良吉、鈴木大拙との対話・書簡を題材に西田哲学における教育観について解説しました。田邊教授は、西田の著書「善の研究」は立身出世主義に乗り遅れた明治青年の修養主義（大正期の教養主義）のシンボルと位置づけ、京都学派と称される現代哲学の伝統を形成する精力的な教育活動を紹介しました。

古代人の知恵に感心

土曜大学で親子夏期特別講座

金沢学院大学基礎教育機構の土曜大学「夏期特別講座」は八月二十二日、二十三日に金沢市の石川県埋蔵文化財センターと、本学で開かれました。

参加した親子三十四人が古代人の火おこしを体験し、それをプレゼンテーションソフトを使ってまとめて発表しました。火おこしに挑戦した児童らは額に汗をにじませながら、古代人の知恵に触れ、感動や疑問を報告にまとめました。



講演する辻口氏 東高校

今を精いっぱい生きよ

東高校 パティシエ辻口氏が講演

金沢学院東高校の文化講演会は九月六日、同校体育館で行われ、世界的に活躍する七尾市出身のパティシエ辻口博啓氏が「辻口博啓の生き方」と題して講演しました。

辻口氏は、小学校三年の

ときに初めてショートケーキを食べて感動し、ケーキ職人になろうと決意した。ピノードを紹介しました。寝る間も惜しんで修行と研究を続けた日々を振り返り、「人生は短い。今現在を精いっぱい生き、いかに充

実させるかが大切」と生徒を激励しました。また、「自分のルーツをしつかり持つてほしい。ささいな日常が世界の舞台につながっている」と話しました。



火おこしを体験する親子 県埋蔵文化財センター

短大全国大会でバド復 八月二日から三日間、神奈川県小田原市で開かれた第四十一回全国私立短大体育大会のバドミントンダブルスで、金沢学院短期大学の北市あかり・細川早苗組



「写真上」が優勝、佐々木彩乃・北倉沙也香組が3位でした。村上夏樹さんも加わった団体は2位でした。

20年連続出場で表彰状 金沢学院大学・短期大学は八月二十二日、全日本女子野球選手権大会魚津市実行委員会から、同大会に第一回大会から二十年連続で出場したことを記念して表彰されました。



表彰状は陶板で、本大会の発展に多大の貢献と感謝の言葉がつけられています。

発行・広報室